

討論集会

福島県 フォーラム

事故収束 / 福島復興に向けて力を合わせよう

2020年2月15日(土) 13:00 - 16:30

会場: コラッセふくしま (JR福島駅西口前) 401 会議室

進行

主催者挨拶

討論 (13:05 - 14:45)

「復興に向けていま問題なのは (廃炉事業の進展、
汚染水処理、被災者の帰還、等)」

- ・登壇者、各 10 - 15 分スピーチ
- ・登壇者間の質疑 / 討論
- ・集会参加者を交えた討論

休憩 (14:45 - 15:00)

討論 (15:00 - 16:30)

「復興への手がかかり (ひと / 企業の誘致、
行政 (国、県、市町村) / 企業 / ボランティアの連携)」

- ・集会参加者の提案 (10 分)
- ・集会参加者と登壇者との討論
- ・登壇者の一言、各 5 - 10 分

※司会・進行は安藤博 (「公益社団法人福島原発行動隊」理事長)

世界中が新型コロナウイルスの感染拡大阻止に躍り
なっています。災害はいつたん起きると復旧・復興には
多大な時間と莫大な費用が掛かります。
2011年3月11日の東日本大震災・東京電力福島第一
原子力発電所事故から間もなく9年となります。
私たち「公益社団法人福島原発行動隊」は「事故収束に
協力することを目的」としつつ被災者住民と寄り添って
復旧・復興の歩みを続けてきました。これまで5回の集
まりを持ってきましたが、今回は登壇者と集会参加者が
一体となって討論を行います。
ぜひ、ご参加ください。

関連企画

菊池和子写真展

「福島 芸能の灯消さず 震災を生きる人々」
「コラッセふくしま」4階会場内

登壇者 (五十音順)

- ・猪狩 貢 (福島県川内村 副村長)
- ・青柳 英明 (東京電力ホールディングス(株) 福島復興本社 副代表)
- ・木元 崇宏 (東京電力ホールディングス(株) 福島第一廃炉推進カンパニー廃炉コミュニケーションセンター 副所長)
- ・北村 俊郎 (元原子力産業協会 理事、元日本原子力発電 理事)
- ・増子 輝彦 (国民民主党 参議院議員)
- ・渡邊 とみ子 (「までい工房美彩恋人」主宰者、元「かあちゃんのカプロジェクト協議会」代表)

プロフィール



北村 俊郎

永く原子力発電の現場で実務に携わられた北村さんは、福島第一原発と第二原発のほぼ中間にあたる富岡町に自宅を建て快適なリタイア生活を過ごしておられましたが、震災と原発事故で生活は一転、現在も避難生活を続けておられます。過酷な避難行の中で、原発災害の実態とはこういうものかと思ひ知らされるとともに、絶えず頭から離れなかったのは、「何故、日本でこんな事故が起きてしまったのか」「何故、防災活動と、その後の住民に対するケアがひどく混乱したのか」でした。そんな想いを綴った原発推進者の無念一避難所生活で考え直したこと（平凡社新書）を執筆・発刊されています。



渡邊 とみ子

1954年に福島市でうまれました。1993年に「飯舘村第四次総合進行計画」の地区別計画委員に就任し、地域の女性リーダー育成に取り組んできました。2005年にはイタテバイクじゃがいも研究会の会長として、飯舘村オリジナル品種「いいたて雪っ娘」と「イタテバイク」の商品開発・加工・販売に取り組みました。現在、活動の中心になっている「までい工房美彩恋人」を2007年に創立。2011年3月11日の東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故により避難生活を強いられながらも、あきらめない心とたくさんの応援を受けて、「かーちゃんのか・プロジェクト協議会」会長として奮闘し、弁当販売などにも取り組まれました。2017年4月以降、避難解除以降は本業の「までい工房美彩恋人」主宰者・「いいたて雪っ娘」の普及と「かぼちゃプロジェクト協議会」の活動で全国を飛び回り、「いいたて雪っ娘」の普及と、このかぼちゃを素材にした商品開発・販売に力を注いでいます。

関連企画



菊池 和子

1945年中国石門市（現河北省石家荘）生まれ。東京学芸大学卒業後、東京都公立小学校教諭となる。48歳のときから夜間の写真学校で学ぶ。54歳で教職を辞し、ポルトガル・リスボン市で6年間暮らす。2008年に帰国。（『福島 芸能の灯消さず』より転載）
主な作品は、「命の限り」「チマチョゴリの詩が聞こえる」「PORTUGAL」「フクシマ漂流」「福島 芸能の灯消さず」など

行動隊の生い立ち

福島原発行動隊は、初代理事長山田恭暉の呼び掛けかけで、「原発事故収束作業に当たる若い世代の放射線被ばくを軽減するために被ばくの害が相対的に少ない退役技術者・技能者を中心とする高齢者が長年培った経験を活かして現場に赴くことを目的として」2011年4月に発足し、2012年4月に公益社団法人となりました。

行動隊の基本的な立場

福島原発行動隊は、各人の思想・信条あるいは心情はいろいろ問いません。その原則は原発の是非についても同じです。行動隊内には脱原発論者も原発維持論者もいます。ただ、団体としては、原発の『是』『非』いずれの立場もとりません。この多様な隊員を結びつける唯一の絆が、原発事故の収束という大目的です。行動隊の全員がお互いを尊重しながら、各自の持てる積年の能力を駆使して未曾有の災厄に立ち向かうこと。これが福島原発行動隊の基本的な立場です。

